

てくてく

福井大学教育学部附属特別支援学校 教育相談部
2022. 2. 22 (火) 発行
福井県福井市ハツ島町 1-3
TEL 0776-22-6781 FAX 0776-22-6776
<http://www.f-edu.u-fukui.ac.jp/~f-tokusi/>

新型コロナウイルスの影響が続く中、令和3年度も、これまで実施していた互いの学校を行き来する学校間交流や居住地校交流の実施が難しい状況となりました。そのような中で、インターネットのオンライン会議システムを利用したり、作品などを送り合ったりする形での交流や、作品展示や販売などによる交流を実施しました。相手先に出向いて直接交流することができなくても、お互いのことを知り合ったり、自分たちの取り組みを知ってもらったりすることができたと思います。対策を行いながら、相手と対面する交流も少しずつ行えるようになってきています。今回の『てくてく』では、このような中で実施してきた活動についてご紹介します。

小学部

居住地校交流（作品交流）

今年度も多数の居住地校交流の希望がありましたが、コロナ禍で全ての学校との往來を控えることとなり、卒業年度の児童が、作品をやりとりする交流を行いました。頑張ったことや楽しかったことなど思い出を写真や文で伝えました。相手校からも、行事の様子などの写真が載った返事が届きました。久し振りに、居住地校交流を行ってきた同級生と、自分たちのことを伝え合うことができました。



中学部

星グループの学校間交流（オンライン）

今年度は、星グループの生徒たちが嶺南東特別支援学校(中学部)と名田庄中学校(特別支援学級)の2校と、オンライン会議システムを利用して交流学习を行いました。

嶺南東特別支援学校との交流は6月、7月、9月に1回ずつ行い、お互いに自己紹介や学校紹介、授業で制作した作品などの紹介をしました。7月の交流では、嶺南東特別支援学校の友達が嶺南地区のおすすめスポットを紹介してくれたため、嶺南方面に修学旅行に行く3年生は特に興味を持って聞いていました。名田庄中学校との交流は、7月、9月、12月に1回ずつ行い、同様に自己紹介や学校紹介をしました。9月の交流後に、名



田庄中学校の友達が作った「だるま」がプレゼントとして届けられると、「自分たちもオリジナルのだるまを作ってみよう」という活動につながりました。そして、12月の交流では学校祭の発表の紹介とともに、自分たちが制作したオリジナルのだるまも紹介しました。

交流を通して互いの学校や活動などを知る機会となり、紹介活動では友達と協力してスライドを作ったり発表方法を工夫したりするなど、より主体的に活動に取り組む姿が見られました。



居住地校交流(オンライン)

今年度はオンラインで居住地校交流を行うことになり、これまでに3名の生徒が居住地区の中学校の特別支援学級と交流学習を行いました。

交流では、互いに自己紹介や学校紹介、活動紹介などを行いました。相手校の友達の好きなものを映像で見ながら聞いたり、クイズに答えたりすることで、3人とも画面を通してやり取りを楽しむ姿が見られました。今年度はオンラインのみの交流でしたが、相手校に行く前に学校や友達のことを知るための良い機会となり、今後の交流につながっていくように思われました。



高等部



ワークフェアで商品を展示しました

9月4日(土)に、ショッピングシティ・ベルで行われたワークフェアに参加しました。生徒たちも参加する久しぶりの対面販売を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症による「福井県緊急事態宣言が」発令されている状況から、展示のみの企画になりました。仕事の時間の様子をポスターで掲示したり、製作した商品を展示したりして紹介しました。新商品の紹介やInstagramや本校ホームページのQRコードなども掲示し、地域の方々に本校の活動を知ってもらうよい機会になりました。

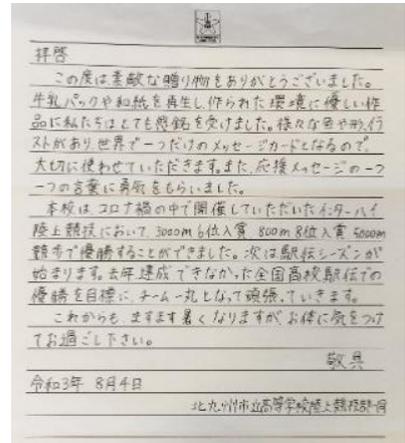


令和3年度全国高等学校総合体育大会での思いがけない交流

今年度、福井県を中心とする北信越で全国高等学校総合体育大会が開催されました。高等部仕事班は、前年度に県より依頼を受け、参加される方への記念品を制作しました。紙と刷り班からは福井県のイラストや総合体育大会のマスコットキャラクター「ウイニン君」を一筆箋や封筒のデザインに入れ込み、1500個の製品を納入しました。

総合体育大会閉会后、北九州市立高等学校の陸上部の方から、お礼のお手紙と、記念品と共に写した素敵な集合写真が本校に送られてきました。「牛乳パックや和紙を再生するという環境に優しい仕事に感銘を受けた。」「世界に一つだけの製品なので大切にしたい。」「応援メッセージひとつひとつに勇気をもらった。」と嬉しい言葉がたくさん綴られていました。生徒たちに紹介すると、「喜んでくれていますね。」「大事に使って欲しいなあ。」「嬉しい!!」といった声が聞かれました。こちらからも何かお返しをということで、メッセージカードと作業風景を添えた色紙を送付しました。

コロナ禍でなかなか対面での虹の市や校外の方に製品を見てもらったり、購入してもらったりすることができない中、自分たちの仕事で喜んでくれる人がいること、対面ではなくても文章や製品を通してやり取りできることで「働く」ことへの喜びを感じたり、また頑張りたいと意欲がわいてきたりと生徒たちのモチベーションにつながる、うれしい交流になりました。また、本校の個性あふれる素敵な製品が様々な県の高校生の手に渡ったと思うと、とても嬉しい気持ちになりました。



日新公民館祭りでの作品展示

10月に日新公民館祭りがあり、17日から23日の一週間高等部の仕事の商品を展示してきました。長い間仕事の頑張りを外部の方に見てもらい、感想をいただいたりする機会がない状況でしたが、地域の方々に毎日頑張っている仕事の商品を見ていただいたことで、「とても丁寧に作られていて感動しました」「これからも頑張ってください」などたくさんの感想をいただき、生徒たちの日々の励みになりました。



焼き物班 交流

12月6日(月)、福井南特別支援学校の窯業班のみなさんと、本校焼き物班のメンバーとで、仕事を通じた交流学习を行いました。粘土を量って型に入れたり、機械ろくろに乗せて余分な粘土を削り取ったりする工程を、ペアになった友達と一つ一つ確認しながら進めていきました。中学生のときのクラスメイトに出会えた生徒もいて、お互いの近況を話す姿も見られました。

12月14日(火)には、福井南特別支援学校を訪問して、マグカップや皿を作ってきました。

短い時間でしたが、新しい仲間と互いに行き来して実際にやり取りでき、有意義な時間を過ごしました。



ハスの実へクリスマスバッグの納品に行ってきました

実習等でお世話になっているハスの実から、クリスマス商品を入れるバッグを作ってほしいという注文があり、現場実習後から紙と刷り班で紙バッグ100個の製作に取り組んできました。約1か月かけてコツコツ製作し、12月10日(金)に、紙と刷り班の生徒たちと納品に行ってきました。ハスの実の方から「ありがとうございます」と笑顔で感謝の言葉をかけられ、生徒たちもうれしそうな表情でした。ギャラリーにも案内していただき、本校の製品がとてもきれいに展示してあるのを見て生徒たちも良い刺激になったようでした。コロナ禍で、なかなか対面で販売することができなかった生徒たちにとって、購入してくださる方と直接会って言葉を交わすことができたとても良い機会となりました。

